



News Letter



竹内緑を支えるルワンダの会 No.22(2023年7月)

7月、九州北部、秋田県やその他の地域に豪雨による甚大な被害がありました。アフリカで目にする被害の映像は限られていますが、胸の痛むことです。被災地、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

去る6月、日本人の若いご夫妻がルワンダを訪れ、イタベホの活動地・リリマのセンターや受益者の家庭などを訪問されました。このご夫妻の奥様とは、10年余りお目にかかっていませんが、幼少の頃より面識がありました。今回、リリマ訪問に関しての感想をお寄せくださいました。若い人の繊細な感性から生まれた文章を味読してください。

ルワンダを訪問して

村川 南 (旧制：江原)

ルワンダについて、ネット上の情報の多くは「奇跡の復興の国」「アフリカのスイス」と治安の良さや1994年に起こった大虐殺から見事に立ち直ったという内容をよく目にします。実際にルワンダを訪問して、首都キガリの印象は、ゴミ一つ落ちていない綺麗に舗装された道路と花が植えられた歩道、多くの警官による警備と、いかにも治安が良さそうで、29年前に凄惨な出来事が起きたとはとても思えませんでした。

「キガリだけでルワンダを知った気になってはいけない」と、緑さんは日本での報告会の際に話されたとの事でしたが、私にとってもその緑さんの言葉はとても心に刺さる言葉でした。と言うのも、ルワンダは表面上復興しているように見えていても、実態はそれだけではないからです。

道路整備がされている裏側には、諸外国から見える所や裕福な人にとって良いようにお金が使われた結果、医療に予算分配されず、貧しい人は適切な医療を受けることができていない状況があります。ルワンダでは、年間2ドルで国立の病院にかかる事ができるものの、国立病院が対応できる医療は一部に限られており、病院によっては医師がおらず高度な医療は、高額な私立病院でしか対応ができないため、貧しさゆえに病院にかかる事ができない場合が多いとの事です。



NYAMATAの病院：リリマの最寄りの病院で、レントゲン撮影の機器と設備がありません。

そもそも国立病院の医者は薄給、給与未払いなど働く環境も悪いため、医師が私立病院でバイトを行い、結果国立病院に医師不在になることもあり、国立病院に来た人たちの対応が遅れてしまうことも。本来であればまず人の命に関わる所にお金を使うべきではと思うが、現状そうでは無く、貧富の差で病気の時に命が助かるかどうか決まるのがルワンダの実情なのです。

また、1994年の虐殺後、「今は争いもなくルワンダは一つになった」と、政府は言っていますが、本当の和解ではなく、お互い当たり障りなく暮らしているだけで、お金のある人はキガリに移住して過去の土地から離れられても、移住する余裕のない人は実際に家族が殺された土地で生き続けなければならないという状況。実際に大虐殺に関しても「ツチは被害者」「フツは加害者」という単純な話ではなく、フツもツチも両方を親族に持つ人もいれば、ツチの報復にあったフツの人、虐殺後の民事裁判で夫が刑務所に入って貧困に直面しているフツの人などさまざまな背景があり、この問題を解決するには時間と和解の活動がまだまだ必要です。



キガリの虐殺記念館：「Kwibuka」は、ルワンダ語で記憶すること、記念すること、という意味

センターの受益者との時間

初めて訪れたリリマのセンターは、子供達の声、皆で囲む食卓、大きな家族のような暖かい関わりのあるとても穏やかな所という印象を受けました。一人一人、問題や複雑な背景を抱えている事は緑さんから事前に聞いていましたが、事前情報がなければ、幸せに過ごしている子供達に見えます。

センターの受益者と一緒に食卓を囲む中で、「日本には貧しい人がいるのか」「なぜ日本人は支援してくれるのか」「親はいるのか」「子供は何人欲しいか」など、沢山の質問を貰いました。ルワンダでは虐殺の背景から家族の話はタブーとされていると聞いていたので、どう答えるのが正解か、どのような意図で聞いているのかと、困惑はしたものの、家族についての質問が多く出た事に驚きました。

私からも子供達に夢を聞いてみたところ、一人一人がとても素敵な夢を持っていましたが、皆が夢を話した後、「何故みんな夢が何かと聞くの?」とインマニエルから質問。緑さんから、受益者達はセンターに来た時は今のこしか考えられず、将来のことを聞いても答えられないと聞いていたので、そうだった子供達が今は将来何に興味があるか知りたくて質問をしたのですが、インマニエルの質問に対して、緑さんが「夢を持ってほしい。夢を叶えられるように支援するし、神様が導いてくれるから。そして夢は変わるものだから何度でも聞きたい」と代わって回答をしてくださったその時の言葉の力強さに、緑さんの子供達への強い思いが手に取るようにわかりました。



左より、南さん、竹内、ご主人（晶教さん）

「将来の夢は何？」と日本では小さい頃から聞かれ、将来を考える事が当たり前でしたが、将来の事を考える事ができるのは、今生きる事が保証されているからこそできる事だと痛感します。センターに来てから未来ができた子供達を見て、今後、センターの子供達のように未来を見ることができると子供が1人でも増えたら良いと感じた対話でした。

イタベホの今後と課題

イタベホでは、現在36人をサポートしていますが、ルワンダにはまだまだ助けを必要としている人は多く、リリマにあるようなセンターをもう一か所、別の所に作ることを目指されています。新たなセンターを作るうえで、課題の一つは資金。十分な資金があればよりおおくの家族や子供の支援ができますが、一方で資金を集める上でも葛藤があると緑さんは話されました。ただ複雑な背景を持つ受益者の情報を不特定多数に伝えることは違うと感じ、大々的に広報することも正しい方法ではないと考えていました。

一方政府からの援助金を申請するとなると、援助してもらう代わりに活動制限が発生することによって、行いたい支援を行えなくなるケースも。イタベホが発足してから今まで支えられてきたことは神さまの守りと、支えて下さる一人一人の支援があつてのことだと思いますが、やはり資金と活動範囲の相関関係があるからこそ、向き合わなければいけない課題だと感じました。

また新しいセンターを作るに当たって、スタッフも必要です。現在、イタベホで働いているスタッフのジンピエール、彼の事はニュースレターを通して知っていましたが、実際に会ってみて今までの壮絶な過去を感じさせないような穏やかで素敵な方でした。英語もルワンダ語も流暢、優しく、人当たりと面倒見が良く、センターで受益者の一人一人と関わるのを見ていると、兄であり父であるような、そんな存在だと感じました。ジンピエールのようなスタッフが与えられたのは、神さまの働きと、緑さんの人望のゆえだと思います。次のセンターを作るにあたっては彼のような、スタッフに出会えるよう、そして必要な資金が与えられるよう、共に祈れたらと思います。

終わりに

実際にルワンダを、リリマを訪れて思った事は、結局自分の目で見なければわからないことです。日本で緑さんの働きを知り、ルワンダについて歴史を学んでもどこか遠い国の出来事だと感じてしまいましたが、実際に会って、話して、食卓をともに囲むことで、より受益者の事を知ること、理解しようとする事ができると思います。

緑さんは、支援できているのは数十人の小さな働きと話していました。ただ、大虐殺やトラウマからの立ち直り、次世代にも続く影響というのは、一朝一夕に出来るようなものではなく、背景が違う一人一人に寄り添って、長い時間をかけて支援していく必要があります。

緑さんは、今の働きは神様から与えられた使命だと話しますが、緑さんの私欲を横に置いて、活動に従事する姿を見ていると、尊敬と、自身の欲に対する後ろめたさと複雑な感情を持ちます。世界にはたくさんの支援を必要としている人がいて、沢山の支援をしている人がいる。その事を心に留めて自分には何ができるのかを考え、行動する必要があると感じました。今回の機会が与えられた事に感謝しつつ、緑さん、イタベホのスタッフ、受益者一人一人が守り支えられるよう、祈っています。

2023年も半分以上が過ぎました。イタベホでは、良くも悪くも大小さまざまな事が起きましたが、総じて守られています。皆様のご支援とお祈りをありがとうございます。どうぞ、続けてお祈り下さるようお願い致します。

在 主
2023年7月、キガリにて
竹内 緑

祈りの課題

1. 受益者である子供たちが、「神を愛し人を愛する人」として成長しますように。
2. 活動費が与えられますように。
3. 受益者（大人も子供も）、病気や事故、種々の誘惑から守られますように。
4. 私をはじめスタッフたちが、この働きにふさわしい者として整えられますように。

【ご支援・ご協力をお願い】

「竹内緑を支えるルワンダの会」の活動にご賛同くださる方は、是非ご支援とご協力を頂けますようお願い致します。

年会費（会計年度1月1日～12月31日）

会員 一口5,000円 / 賛助会員 一口2,000円

※会費以外の寄付も随時お受けいたします。

【会費・ご寄付の送金方法】

○郵便振込（別紙払込取扱票又は郵便局備付けの払込取扱票をご利用ください。）

郵便振替口座：01330-5-102074

加入者：竹内緑を支えるルワンダの会

○郵貯銀行振込

郵貯銀行口座 記号 15250 番号 3593801

NGOの名称、ルワンダ語で**ITABWEHO（イタベホ）**、の意味は「**愛すること、世話すること、癒すこと**」などであり、私たちが行っていることです。

1. 心の傷を癒すために心理学（精神）的だけでなく、全人的なアプローチを行う。つまり、心理的、肉体的、社会的、霊的な支援を行う。
2. 心に傷を負った女性だけでなく、彼女の家族（子どもたち）をも含めて支援をう。
3. 必要な人には、シェルターを提供し、我々の保護下で生活を共にしてケアを行う。
4. 支援する受益者は、ひとり一人を大切にするため30人余りの少人数とする。

以上は、我々独自のものであり、理念とも言える基本的考え方です。

絡・お問い合わせ先：「竹内緑を支えるルワンダの会」事務局
〒680-0463 鳥取県八頭郡八頭町宮谷 224-1 日本キリスト教団八頭教会内
電話 0858-72-0075 E-mail: mtakeuchi.rwanda@gmail.com (竹内緑個人アドレス)